

第11回の復習課題

ex11-8.c

関数 `fadd()` は、2つの `float` 型の値 `a`, `b` を引数として受け取ると `a`, `b` それぞれの小数部の和の値を `float` 型として返す関数である。また `fadd2()` は、引数と戻り値がすべて `double` である以外は `fadd()` と同じ計算を行う関数である。関数 `fadd()` と `fadd2()` を定義しなさい。また、2つの実数値 `x`, `y` を **double** 型としてキーボードから入力すると、関数 `fadd()` と `fadd2()` を用いて `x`, `y` の小数部の和を出力することを繰り返すプログラム **ex11-8.c** を作成し、`kiso2` コマンドを用いて提出しなさい。ただし `$x`, `$y` 両方に 0 が入力されるとプログラムは「終了します」と出力してから終了するものとする。

実行例：

```
t190900@s01cd0542-160:~/kiso2-2019/ex11$ ./ex11-8
x y? 1 2
fadd: 1.000000と2.000000の小数部の和は0.000000
fadd2: 1.000000と2.000000の小数部の和は0.000000
x y? -1.1 2.2
fadd: -1.100000と2.200000の小数部の和は0.100000
fadd2: -1.100000と2.200000の小数部の和は0.100000
x y? 2.1 -2.2
fadd: 2.100000と-2.200000の小数部の和は-0.100000
fadd2: 2.100000と-2.200000の小数部の和は-0.100000
x y? 12.345 -54.321
fadd: 12.345000と-54.321000の小数部の和は0.024001
fadd2: 12.345000と-54.321000の小数部の和は0.024000
x y? 0 0.0
終了します。
```

最後の `ex10-8.c` で定義した関数 `pexit()` が再利用できます。

[第12回基本課題へ](#)

From:

<https://www-slab.math.ryukoku.ac.jp/> - **www-slab.math**

Permanent link:

<https://www-slab.math.ryukoku.ac.jp/lecture/kiso2/2018/rev11>



Last update: **2019/09/23 13:24**